

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成19年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2274101464
法人名	株式会社小龍閣
事業所名	グループホーム モアライフ一番町
所在地 (電話番号)	静岡市葵区一番町30 (電話) 054-653-0832
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年7月11日

【情報提供票より】(19年6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋造り 3階建ての2階～3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	理美容、おむつ代等実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	静岡厚生病院、北村医院、塚田歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して5年目を迎えるホームは、これまでの取り組みで地域に根ざしたホームとなってきた。地域や近隣小学校行事には積極的に参加し、近隣住民との交流も深まってきている。利用者は、ホーム職員に信頼を寄せ、安心して充実した生活を継続している。常に利用者本位のサービス提供を考え、計画や支援内容を振り返る仕組みが確立している。職員が提供するサービス向上に向け、職員研修も充実して行っている。今後も、利用者や家族、地域関係者の参画を得て、運営推進会議を定期的に開催し、利用者の生活の質の向上に繋げられる検討を重ね、その取り組みを実践することを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>定期的を受審している外部評価結果は、職員全員が確認し、話し合いを行って計画的に改善や工夫を重ねてきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義と役割を認識した上で、全ての職員が積極的に取り組んだ。これまでの取り組みを振り返るとともに、課題や問題を話し合うきっかけとしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>訪問調査日時点では開催されていないが、開催に向けた準備を進めている。利用者や家族、地域関係者等に参画を求め、利用者へのサービス向上に繋げられるように期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が気軽に何でも言えるような関係づくりを大切に考え、家族の訪問時には意見や意向を把握するように努めている。また、苦情や意見等があった場合には、適切に処理できるように仕組みが構築されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域に根付いたホームづくりを念頭にこれまで取り組んできている。地域行事にも積極的に参加する等、近隣住民との交流も深まってきている。今後の継続した取り組みに期待したい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が安心して生活できるように「明るく共に支え合い、いつまでも寄り添う」の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念を毎日のミーティング時等で確認し、それに沿った支援が行われているか確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事や小学校の運動会等に参加して、地域との交流を図るように努めている。	○	今後も地域との交流を深め、更に地域に根付いたホームとなるように期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全ての職員で自己評価に取り組んだ。また、前回の外部評価結果内容は全ての職員が理解し、これまでも改善と工夫を重ねてきた。	○	評価を一過性のものとしないうで、これからも定期的に行うとともに、更なる取り組みにつなげられるような取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を計画しているが、訪問日時点では開催されていない。	○	地域に根ざすホームづくりを行う一つの方法として、利用者や家族、地域住民や関係者を巻き込んで定期的な開催を行い、利用者へのサービス向上に繋げられるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じた市行政等との連絡は行っているが、利用者へのサービスの向上に向けた定期的な取り組みにまでは至っていない。	○	保険者である市町行政(職員)に働きかけ、利用者本位のサービス提供に向けた検討が定期的に行われるように期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には居心地良く過ごせるように接し、日ごろの利用者の様子について伝える他、定期的に連絡して近況を伝えている。また、ホーム便りも作成し、金銭管理状況等も定期的に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や連絡を行う際には、何でも言える雰囲気づくりに努め、些細な事柄でも意見や要望を把握するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動の弊害を理解しているが、職員の退職がこれまでにある。2ユニットあるが、職員が常に全ての利用者と接するようにしているため、利用者に動揺が生じないように配慮している。	○	退職する理由は様々であると考えられるが、ホームの性格を再認識し、出来る限りそれが起こらないような取り組みに期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での新規採用職員研修及び職員研修を年3回行うようにしている。サービスの質の向上を図るために、外部研修の情報も積極的に把握して、受講できるように支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に複数のホームがあるため、ホーム間職員研修を行ったり、意見交換を行っているが、地域内の同業者との定期的な交流や話し合いの実施にまでは至っていない。	○	ホーム自身も地域内のネットワークづくりの必要性を感じているため、利用者への柔軟なサービス提供を考慮し、ケース検討等が定期的に行われるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込み時には見学や体験利用等を勧めている。利用者と職員が出来る限り顔なじみの関係となり、サービス提供するようにしている。また、その状況は家族にも伝え、理解を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的にサービス提供を行うことなく、常に敬いの気持ちを忘れず、利用者寄り添いながら共に学びあえる関係づくりが構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を日常生活の中で把握するように努め、家族からも聞き取るようにしている。また、その内容を職員間で共有している。また、うまく言葉で表現できない利用者からも表情や動作から把握し、その実現に向けて取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネが中心となり、利用者に関わる全ての職員が関わり介護計画の策定を行っている。利用者や家族の意向や要望を把握し、それが反映されるように計画を策定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を設定し、その状況を定期的に評価し、計画見直しを行っている。利用者の状況の変化や希望が生じた場合には速やかに変更するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム機能の特性を踏まえて、利用者の状況に応じた柔軟なサービス提供が行えるように配慮している。また、利用者や家族の意向に沿って支援が行えるように取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、原則として家族が付き添うが、希望により職員が付き添っている。その際には、受診結果を家族に確実に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの希望がある利用者に関しては、かかりつけ医、家族、職員が話し合いを行い、対応するようにしているが、ホームの方針策定にまでは至っていない。	○	終末期に向けたターミナルケアの対応については一律に対応することは難しいが、その対応方法については、ホームとしての検討を重ね、方針策定を行って欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の羞恥心への配慮、プライバシーを損ねることが無いように配慮している。その確認を定期的に行っている。個人情報の取扱いについても、理解を深め、ホーム便りを作成する際にも写真掲載の了解を得たりする等している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、ホームや職員の都合で接することが無いように努めている。利用者の出来ること出来ないことも把握し、支援が押し付けとならないように留意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を考えるも利用者の嗜好や食べたい物を献立に反映させるように配慮している。買い物や食事作りは、利用者とともにいき、食事時間が楽しいひとときとなるように心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に併せていつでも入浴できるように支援している。入浴を拒む利用者に対しても、優しく促して入浴するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好や好みを把握し、充実した日々が継続できるように支援している。毎日がマンネリ化しないように様々な出来事を用意している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向にも留意しながら、出来る限り閉じこもることが無いように楽しく外出できるように積極的に外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠を行う弊害を理解し、日中の施錠は一切行わない支援を行っている。利用者の動向は見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を消防署等の協力を得て定期的に行っている。	○	あらゆる事態を想定し、近隣住民にも協力が仰げるように訓練への参加を依頼する等、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量の記録を行っている。また、栄養摂取状況確認も行い、一人ひとりの体調確認も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節感のある装飾を施し、家庭らしい雰囲気づくりを行っている。写真を掲示したり、居心地良い空間づくりを行い、利用者の憩いの場となるように心掛けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理ダンスを用意しているが、使い慣れた家具や装飾が行えるように利用者や家族に呼びかけている。利用者によっては、持ち込まれている方も居るが、やや殺風景な居室もある。	○	引き続き。使い慣れた家具等が持ち込まれるように呼びかけ、個性ある居室づくりに向けて支援されることを望みたい。